

令和4年度事業報告書

自 令和4年4月1日

至 令和5年3月31日

社会福祉法人 晃宝会

目 次

1 はじめに	1
2 特別養護老人ホーム あじさい園	2
3 ショートステイ あじさい園	5
4 医 務 室	7
5 栄養士・調理師	8
6 歯 科 衛 生 士	11
7 特別養護老人ホーム あじさい園宝	11
8 ショートステイ あじさい園宝	17
9 グループホーム あじさい園	18
10 デイサービスセンター あじさい園	19
11 ケアハウス あじさい園	20
12 居宅支援事業所 あじさい園	22
14 オレンジカフェ すいもん	23
15 ニコニコタクシー（介護輸送サービス）	23
16 ハーネ中御門	24
別 紙	27～57

令和4年度は、「One Team 共に歩もう 温かい心で」人間の尊厳を尊重することを大切に職員全員で運営してきました。365日24時間、ご利用者様との関わりがとぎれることはなく、平常心を保ちつつ、ご利用者の安全と健康、安心とごきげん良し、をいつも祈りながら、多くの職員が、多職種で協力協働し、共に日常生活を営んでまいりました。

令和4年度、新型コロナのさざ波は常に立ち、時に大きな波となり、いつくるかわからない危機感に心は痛んでいました。それでもいつも感謝と笑顔を忘れない職員全員を心から尊敬し、ほこりに思い、あらためて敬意を表したい一年でした。

ご利用者のご家族の会えないさみしさやつらさに対してどう支援するか、ご利用者は心豊かに過ごせているか、楽しい時間を他者と共有できているか、ご本人らしく過ごせる場所や時間を確保できているか、選択する楽しさや喜び、満足な時間、自信や意欲を味わえる時間が確保できているか、と。コロナ禍という特別なでき事が日常となった昨今、制限のある中で、ご利用者のために悩み、考え、精一杯のサービス提供につめとめることができたのではないかとふり返ります。

そのような中であるからこそ、最新の入浴システムの導入や、各種車イスの新規導入にあたり、現場の声を大切に環境を整備しました。BCP（災害時福祉施設業務継続計画）策定では、特養中心に法人内事業所間の連携を深め、法人全体で危機管理体制を確認しました。

虐待や身体拘束防止については、内外研修に積極的に参加し、定着するためふり返りを行いました。これらはささいな不適切ケアがきっかけとなるため、知識や技術を体得し、品格を保ち、人間力を高めることが大切です。コロナ禍において、全国的に介護施設職員による虐待件数が増加しているというニュースは大変残念なことでありますが、閉鎖空間であること、今まで以上に、ご利用者や職員のストレスが大きいこと、などだれもが直面しているからこそ、私は大丈夫、私達は大丈夫と安心せず、リスクマネジメントをくり返しました。

学ぶことをあきらめず、小さな歩みを謙虚な気持ちで続けてきました。ご家族等と対面できないさみしさに寄り添い、電話での声やお便りにも笑顔をのせて届けるよう努めました。

ご利用者のご家族のなくてはならない場面では、直接会っていただくことを優先し、機転をきかせ臨機応変に務めました。感染症からご利用者を守るため、医療介護の専門職として清潔を保ち、感染予防に努めました。

ご利用者、ご家族、関係者の皆さま、職員の協力なくしては、無事に過ごすことができなかつた令和4年度、皆さまに、心より深く感謝申し上げます。

2 特別養護老人ホーム あじさい園

法人目標 『One Team 共に歩もう温かい心で』について

私達は、ご利用者の些細な変化にも情報を共有し、職員と看護師が One Team となり連携しながら援助することが出来ました。又、一人ひとりの強みを生かし、欠点を補い合い援助する事で、お互いに成長出来たのではないかと思います。ご利用者に笑顔で接していると、気持ちが通じるのかご利用者も優しい言葉を掛けて下さり、温かい気持ちになりほっこりする場面もありました。

パーソンセンタードケアのために

- ・接遇についてのアンケートや、勉強会を通じ職員一人ひとりの意識も高まりご利用者に笑顔と温かい気持ちで援助を行えるようになりました。
- ・看取りケアについて今年度は、10名のご利用者のお旅立ちに寄り添い、介護をいたしました。他部署とも連携し、ご利用者が普段と変わりなく穏やかな生活をして頂ける様に職員全員で意見を出し合い、対応の改善に努めることが出来ました。また、ご家族に些細な状態変化もお伝えし、遠慮なく面会に来て頂き色々なお話をさせて頂く中で信頼関係を築くことが出来ました。

過ごしやすい空間づくりのために

- ・定期的な換気と手の触れる場所の消毒により、感染症予防対策の観点からも明るく清潔な空間づくりが出来ました。
- ・生活空間の整理整頓や清掃については、職員みんなで協力し合いながら、綺麗ですっきりとした環境作りが出来ました。
- ・清掃業者に入って頂き、居室やベッド周りの清潔保持に努めました。

『職員』という環境を整えるために

- ・どなたからも好印象を持って頂ける、清潔感のある身だしなみを心掛けました。
- ・職員には、能力や性格など個人差はありますが一人ひとりが相手の立場になり、気付き・考えて行動できるように会議や勉強会などで意味や価値を伝える事により、少しずつ変化が見られるようになってきました。
- ・職員の腰部負荷軽減、動作時の身体的負担予防及び改善の為に電動ベッド・スライディングボードの活用や、腰痛予防の身体の使い方を心掛け、無理のない介助を行いました。
- ・年間目標を軸として毎月目標を作成し、理念とともに毎日唱和する事で職員の意識向上を図り達成を目指す事で、質の向上及びスキルアップを図りました。
- ・技能実習生について

1月から2期生が仲間に加わりました。まだ、入職して日も浅いですが特養に慣れようと一生懸命頑張ってくれています。日本語・介護技術・専門用語等覚えなければいけない事はたくさんありますが、ゆっくりと丁寧に指導していきたいと思っています。一期生は、4年目となり、「専門級」介護技能実習評価試験にも合格して、特定技能外国人として以前よりも自信を持ってご利用者と関わってくれています。毎日のように明るい笑顔でご利用者と職員に接してくれている事で元気を与えてくれ

ました。

安心して過ごして頂くために

○感染防止対策について

スタンダードプリコーション（標準予防策）を基に介助前・介助後は手洗いをを行い1ケア・1手袋・手指消毒を徹底し感染予防に努めました。

コロナウイルス感染症の感染者数が増減を繰り返しており、感染症対策の徹底や厚労省から新たな対処方針が打ち出される度に、都度マニュアルを改訂して対応方法を改め周知徹底を行いました。

・出勤時の健康チェック、検温及び消毒・業務に入る前に手の消毒、居室内・食堂の手の触れる場所の消毒、車椅子、机等の消毒を毎日行いました。

・食堂・居室・廊下の換気を行いました。

・食事以外は、マスク・ゴーグルを着用し飛沫防止対策を行い、更衣室での私語は慎みました。

・加湿器により、24時間稼働で湿度の管理を行いました。

・職員は、プライベートでも3密の徹底・必要以外の外出を控えました。

・会議については、三密を避け換気を充分に行い対面形式とONLINEグループ利用によるリモート形式を合わせたハイブリットで行い感染防止対策を行いました。

・コロナウイルスの急拡大により保健所業務が逼迫の為、感染者発生の際は事業所で追跡調査を行うことになった為、ご利用者の介助（排泄・食事・入浴・移乗・体位変換等）に関わった職員名を番号化して追跡しやすい様にしました。

・職員のコロナ感染・濃厚接触者はありましたがご利用者には感染することなく迅速に看護師と連携を図り、職員の出勤停止や職員・ご利用者の抗原検査を施行し蔓延防止に努めました。

・面会に関して…コロナ感染者が多い時期は中止としましたが、比較的落ち着いている時期には、状況に応じてリモート、フィルムカーテン越し、玄関のガラス越しにて面会して頂きました。

・特養ご利用者に関わる職員は、特養職員・看護職員のみで固定して業務を行い、食堂の立ち入りも出来る限り最小限にしてもらう様に各部署に協力を要請しました。

・各居室に蓋付きのゴミ箱を設置して環境整備に努めました。

・5月8日からコロナウイルスが5類になる事で現在行っている感染症対応の見直しを行いました。いきなり感染対策をゆるめるのではなく世間の様子や厚労省からの対策方針を参考に徐々にコロナ禍前の特養に戻せたらと考え取り組んでおります。

◎事故防止対策については、引き続き「セーフティーマネジメント」（ご利用者の立場からアクシデントを未然に防ぎ、安全を確保するための管理体制）にて行います。

○事故防止対策について ※別紙資料参照

事故件数の総件数は、前年度は71件・今年度は70件でほとんど変化は見られませんでした。今年度は転倒事故が多く16件、次に内出血の事故が14件・ずり落ち事故が13件と報告されています。事故が起きた場所としては、居室での事故が32件と多く、次に食堂での事故となっています。

転倒事故については、ご利用者が居室内や居室内のトイレ前で転倒されている事が多く、ご自分で何かしようと行動された時や職員の介助なくトイレに行こうとされた時などに、バランスを崩されてしまう事が一因になっています。

(事故の多い時間帯)

6時…起床介助時で職員が見守り不十分となってしまう時間・10時…入浴時間帯で着脱・洗身介助時に発見する内出血や食堂を2名体制で見守りを行っているが、職員数が少なくなる時間帯・17、18時…ご利用者就寝介助時に職員が手薄になってしまう時間帯・21時…夜間帯の排泄交換時で職員が見守り不足になってしまう時間帯となっています。

今年度の骨折事故は5件と前年度に比べれば、5件減少しましたが、ご利用者自身が何かしようとされたり、トイレに行こうとされたり、体調を崩された時に歩行しようとしてバランスを崩されて転倒・骨折してしまっています。また、加齢に伴い骨密度が少なく、少しの動作で骨折してしまう事もありました。

次年度はご利用者一人ひとりの身体状況を把握し、加齢に伴い骨密度が低下している事も鑑み、少しの負荷でも痛めてしまう事を職員はしっかりと認識する事が大切と考えます。また、職員は「大丈夫だろう」「誰かがしてくれるだろう」との考えがよぎる臆測や過信した考えはなくし迅速に対応をする様に心掛ける必要があります。前年度終盤から今年度にかけてご利用者の入れ替わりが多く、面接シートから読み取れる事故予見があれば、迅速に対策・検討を未然に予防出来るように取り組みます。委員会では対応をしきれないことも考えられる為、ケース担当職員とも連携を図り、状態把握に努めてまいります。

(ヒヤリハット報告書)

総件数22件の報告があり、転倒未然が11件、異食未然が5件と大半を占めており、転倒未然の報告は特定のご利用者の方が多く報告がされています。令和4年5月よりナースコール連動型センサーを導入し、旧センサーと併用しながら対応する事で、前年度のセンサー誤作動により発見が遅れることはなくなりました。しかし、離床されている時間帯に見守りが不十分になり、職員が気付かずトイレに行ってしまうと言うヒヤリハット見受けられました。また、帰宅願望が強く見られる方が車椅子を押して歩いておられる事もありました。それと認知症進行で机に置いている雑誌や薬の袋等を口に入れてしまう異食未然もありました。職員が気付かずに行動をしてしまっている事が多く、また、職員のこれぐらいは大丈夫だろうと言う過信もあったと思われまます。職員が気付く様に車椅子に鈴を付けて鈴の音で気付きを促す様にし、異食行為がある方の机には必要な物以外は置かない様に徹底する事を周知していく事が必要と考えています。新規のご利用者の増加に伴い、適宜対策を考察し、更新をしていく事が必要と考えています。

○食事箋(食事形態)の検討や変更については、ご利用者の状態に合わせて栄養士や看護師とも連携し迅速に行いました。

○歯科医師・歯科衛生士により、ご利用者個々の状態に合わせた口腔ケアを行い、美味しく食事を楽しんで頂ける様に支援して頂きました。

苦情相談対応について ※別紙資料参照

本年度の苦情は1件でした。

年間稼働実績について ※別紙資料参照

11月までは前年度よりも安定していましたが、12月以降は、施設内看取りや長期入院による退所者が相次ぎ、入院者も多く、稼働率が下がりました。

(令和3年度 96.2%⇒令和4年度 93.4% 前年比-2.8%)

新規入所者に次々と入所していただいておりますが、なかなか追い付かない状況が続いています。

経費節減を目指した取り組み

・エアコンや電灯などのこまめなスイッチオン・オフを適正に行い、節電に努めました

・オムツ等の生活用品も業者と連絡を取り合い、快適である物や使用しやすい物へ変更しています。

※別紙2 参照 (令和4年度年間行事報告書 特養・ショートステイ) ……P.28

※別紙3 参照 (特別養護老人ホームあじさい園 利用状況) ……P.29

※別紙4 参照 (令和4年度事故状況報告) ……P.31

※別紙5 参照 (令和4年度 特養 苦情相談対応報告書) ……P.35

3 ショートステイ あじさい園

「One Team 共に歩もう 温かい心で」

ショートステイでは温かい心と丁寧な対応でご利用者一人ひとりに寄り添い、また、いつ・どこで・誰が聞いても不快に思わない適切な言葉遣いをする事を念頭に入れ、笑顔の絶えない環境作りに努めて参りました。また職員間や他事業所・地域の皆様と力を合わせ、ご利用者・ご家族から「また利用したい」と温かいお言葉も頂き、目標に対しての達成感もあったのではないかと感じています。今後さらにONE TEAMでより良い施設作りを目指していきたいと思っております。

サービス提供について ※年間稼働表率は別紙参照

昨年に引き続き、コロナウイルスと言う目に見えない敵が猛威を振り、感染防止の対応や規定・制限等でご利用をお断りする事もあり、ご利用者・ご家族には大変お手数とご迷惑をおかけ致しました。またドライブや遠足等の外出行事や外部のボランティアによる踊りや絵画教室等の企画・実施も出来ませんでした。少しでも利用者の皆様が満足して頂けるよう施設内で出来るレクリエーションや平行棒を使用しての機能回復訓練・食事会やおやつパーティーと限りあるサービス提供となりましたが、年間を通して安定した稼働率の維持する事が出来ませんでした。コロナウイルスについて令和5年5月8日より第5類に分類され規定や制限が緩和され、遠足やドライブ等の外出行事が実施出来ると思われませんが、感染症対策を怠りなく利用者の皆様に精一杯のおもてなしをし、信頼と満足して頂けるショートステイであり続けられるように努力していきたいと思

います。

事故について

※年間集計・詳細については別紙参照

事故総件数は R4 年 4 月～R5 年 3 月末まで 22 件発生しており、外傷発見は 6 件ありました。

ヒヤリハット総件数は R4 年 4 月～R5 年 3 月末まで 11 件の報告がありました。事故や、ヒヤリハットに対する検証や再発防止策については都度、事故防委員会を主とし、検討・実施を行っております。また会議でも再度報告し、情報共有を行っております。

感染症について

昨年に引き続き、今年度もインフルエンザやノロウイルスの蔓延はありませんでしたが、新型コロナウイルスが流行し、蔓延防止の為に利用を控えて頂いたり、利用中に微熱程度の有熱があっても退所して頂いたりご利用者のご家族には大変なご迷惑をおかけしたと思います。また季節の変わり目等で体調を崩されるご利用者や、職員自身の疲労もあり、体調管理が不十分で欠勤・早退が見られました。感染症対策については、入所前の電話連絡時にご利用者のご家族の体調確認をさせて頂く・送迎時に体温測定を行い、園に到着直後手洗い・うがい・消毒をしてもらい食堂に誘導し、園にウイルスを持ち込まないように努めました。また毎日マスクが交換出来る体制を取り、感染予防に努めました。年間を通してご利用者のインフルエンザやコロナウイルス等の大きな感染症は見られず、お変わりなく過ごして頂いたのも常日頃の感染症対策が出来ていたものと思います。令和 5 年 5 月 8 日より第 5 類に分類され規定や制限が緩和されると思いますが、感染症の勉強会やスタンダード・プリコーションの重要性を職員に周知徹底を行い、全職員が迅速な初期対応出来る様にスキルアップに努めていきたいと思っております。

苦情・相談について

※年間苦情・相談受付は別紙参照

苦情・相談受付総件数は 1 件でした。ショートステイ利用より自宅に戻られた際に『本人様が左足の第 2 指が痛いと言っている・ショートステイ利用中にどこかにぶつけたのではないか？送迎車の中でどこかにぶつけたのではないか？』とご家族より連絡あり、職員の対応の確認しそのような事は無かった事をご家族に説明させて頂きました。『はっきりした原因はわかりませんが、引き続き注意して対応させて頂きます』とご家族に説明させて頂き、引き続き移乗介助は 2 人で行う事を徹底し、車椅子も振り子式からファーラー式に変更し、本人様に負担がかからないよう移乗介助がスムーズに行えるようにしました。

※別紙 6 参照 (ショートステイ年間稼働率表) ……………P.36

※別紙 7 参照 (令和 4 年度 ショートステイ事故状況報告書) ……………P.37

※別紙 8 参照 (令和 4 年度 ショートステイ 苦情相談対応報告書) ……P.41

4 医務室

医務室業務として、ご利用者の健康管理と職員の心身の健康状態の把握とアドバイス、感染症の発症予防と蔓延防止対策、事故防止対策、職員の労働災害の予防対策、メンタルケアに努める事です。

特養ご利用者の健康管理は週2回の内科医の往診で定期診察をして頂いております。皮膚科は月1回、歯科も往診があり必要時診察して頂いております。

ご利用者の疾病が老化とともに増加し、定期診察以外にも体調不良、骨折などで病院受診人数は延べ149名、定期診察以外の体調不良時の往診45名、昼夜間時間に関係なく先生方には電話での対応もして頂きました。

・入院延べ人数32名

(右大腿骨頸部骨折3名 左大腿骨骨折1名 左脛骨腓骨骨折1名 左上腕骨骨折1名 左肩関節脱臼骨折1名 気管支肺炎3名 気管支炎1名 気管支喘息1名 誤嚥性肺炎9名 認知症1名 尿路感染症3名 心不全3名 腎不全1名 急性胃腸炎1名 胆嚢炎1名 総胆管結石1名 急性膵炎2名 下行結腸癌1名 足趾壊死1名)

- ・救急搬送 特養4名 ショートステイ5名
- ・園での看取り10名
- ・病院での永眠4名
- ・急変での永眠4名
- ・入院により退所2名

ご利用者のバイタル測定、食事摂取など日々の関わりにより異常の早期発見に努め、夜間の救急を防ぐ為にも日中での早期判断、対応をさせて頂きました。

今年度もご利用者と職員の健康診断、インフルエンザワクチン、コロナワクチン接種を行い、産業医と連携を図りアドバイスを頂き健康管理を行いました。インフルエンザ、ノロウイルスの発症はありません。

新型コロナウイルス感染症が全国に広がり3年になります。ワクチン接種、定期的なPCR検査、体調不良、不安のあるご利用者と職員の抗原検査、日々の環境整備、消毒、換気、感染予防マニュアルの把握、ご利用者の介護対応記録を作成し、持ち込まない、広げないを基本に感染予防対策を行いました。職員のコロナ感染、濃厚接触者を把握し、日頃の感染対策、ご利用者の対応記録により素早く接触者の確定、保健所への報告を行い、園内に持ち込むこともありませんでした。

3月に発熱のご利用者が居られ、コロナウイルス、インフルエンザは陰性でしたが感染力が強く同室や同テーブルのご利用者も感染、蔓延していると判断し感染対応とさせて頂きました。ご利用者25名、職員9名の感染を確認。現在は穏やかに過ごされています。実際に感染対応をし、すべての職員がマニュアルの把握が出来ていない、コロナウイルス、インフルエンザでは無いという言の緩みがあったなど問題点が見えてきました。検証、反省し研修を行い今後の感染症発生時の対策に生かしていきます。

令和4年度法人目標「One Team 共に歩もう 温かい心で」

医務室はご利用者が苦痛なく、安心安全に過ごして頂けるようそれぞれの専門職の力を借り、個々に応じた柔軟な対応、素早い判断、報告、連絡、相談の徹底を行いご利用者を中心に考え対応するよう努めさせて頂きました。社会福祉法人として、地域に住む人達が安心して暮らせる場所、集える場所になるよう法人職員として努力していきたいと思っております。

5 栄養士・調理師

法人目標「One Team 共に歩もう 温かい心で」を振り返り

新型コロナウイルス感染拡大の中、ご利用者はご家族にも思うように面会出来ず、日々の生活の楽しみが今年度も奪われました。ご利用者の楽しみである食事を通して、少しでも季節感を味わって頂けるよう厨房職員と連携して献立に組み込む努力をして参りました。物価上昇の影響など昨年度とは大きく単価が跳ね上がり、思うように進まない事もありましたが、行事食などでは季節を味わって頂けるような献立を提供し、ご利用者、厨房職員ともに温かい心で過ごす事が出来たように思います。

食事は、単にエネルギー・栄養素の補給を目的とするのではなく、摂食・嚥下機能や認知機能が低下しても、最期まで自分の口から食べる楽しみを得られるよう多職種による支援の充実が求められています。ご利用者のニーズは多種多様で、日々変化しています。ご利用者に快適に過ごして頂くために、このニーズに栄養士・厨房職員が連携して迅速に対応が出来るよう心掛けました。身体の機能に合わせた食事提供によって、一人ひとりが「その人らしい日常を健やかに過ごせるようになる」こと。施設で提供する食事でご利用者の栄養状態が改善したり、「おいしかった」と笑顔を見せて頂いた時は、大きなやりがいを感じられました。

今後も課題について検討し、効率よく作業が進められるよう対応していきます。食事に関わる職員がOne Teamとなり、共に「食べる楽しみの支援の充実」に向け歩み続けたいと思っております。

食事提供について

サイクルメニューを基に四季の味覚を取り入れ、季節に合った献立で食事を楽しみに思ってもらえるよう心掛けました。また、より美味しく食べて頂けるよう、ご利用に合わせた食事内容となるよう柔軟に対応しました。

献立作成から食材発注・調理を担当し、それぞれのご利用者の身体状況に合わせた調理方法を考えて、主食は米飯、米飯とお粥を混ぜた軟飯、お粥、お粥をミキサーにかけたソフト食を提供しています。副食は普通食・一口大・刻み食・超刻み食・刻みトロミ食・ソフト食やミキサー食など、食べやすい形態にして提供しました。また、季節ごとの行事食やイベントなどを催して、食べる意欲を引き出せるよう努めました。食事の個別対応は、食事形態だけでなく、盛り付ける量や代替食の提供、希望する食べ物を個々の提供方法で実施し、喜んで頂いたり、食事意欲が向上したりしました。その他、喫茶、手作りおやつ、お誕生日会献立などを楽しんで頂きました。

飲み物はコーヒー、紅茶、牛乳、アップルティー、レモンティー、ココア(寒い時期)、

ジュース（暑い時期）、水分補給用ジュレなどで脱水予防に努められるよう、多くの種類を揃え提供しました。

地域福祉サービスの一環として、地域のご利用者に配食サービスを行いました。また、地域の中で様々な理由により「暮らしにくさ」を抱えている方々へ支援を届ける事業として、まほろばレスキュー（食料支援）を行いました。

安全な食事、衛生管理について

食中毒や感染症予防のため衛生管理や体調管理を日々行った結果、食中毒など発生させる事なく食事提供を行う事が出来ました。しかし、今年度も新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい続け、感染症対応での非常食、使い捨て容器を使用した対応を行いました。使い捨て容器での食事は、常に冷たい食事を提供していた等の問題点も見え、今後は各部署とも相談し、改善に努めたいと思います。

安全面については、食材のへたを切り落とし忘れ等の報告がありました。厨房内で検証し、今後は今まで以上に厨房職員全員が安全や衛生管理に対する意識を高め、異物混入や配膳ミスなどをゼロに近づけられる対策を講じ、再発防止に努めます。

感染時、災害時の備えについて

非常食、使い捨て容器の確保を行い、期限が近いものは献立に取り込み調理し、無駄なく提供を行いました。また、提供した非常食は随時新たに確保する事で、常に非常時に備える事が出来ました。また、新たに咀嚼や嚥下に配慮した非常食を取り入れ、ソフト食、ペースト食のご利用者にも食べやすく安心頂けるような献立の作成に取り組みました。

今後は、献立内に災害時メニューを取り入れ、ご利用者の嗜好や、調理工程の確認を行うなど、有事に備えた対応が出来ればと考えています。

栄養ケアマネジメントについて

一番大切な事は、食事を楽しみにしていただける事だと思い、日々の食事を大切にしています。食事に関連する様々な状況を的確に把握し、安定した食事摂取状況を確保するために、食事環境を含め適切に問題解決に努めることが、QOLの向上や栄養状態の改善に結び付くと考えられます。体重や食事摂取量、血液検査の結果などから、低栄養状態のリスクの有無や課題を把握しました。多職種と情報を共有するため、カンファレンスや話し合いを行い、ご利用者一人ひとりの状態に合わせた栄養ケア計画書を作成し、管理栄養士がケア計画内容をご家族に説明し、ご要望・ご意向を聞かせて頂きました。その際、低栄養状態のリスクだけではなく、普段の食事状況など、生活されている様子も合わせてお伝えさせて頂きました。

低栄養の可能性のある方や看取りケアの方に対しては、看護師・介護士と相談し栄養補助食品を追加したり、食事形態や食事量の検討を行いました。栄養補助食品については、ご利用者の状態や嗜好なども考慮し、数種類の中から適したものを選択し提供出来るよう工夫しました。ご利用者の食事時間に、ミールラウンド（食事時の利用者への訪問）を行い食事の様子を観察しました。食事摂取量の把握及び、むせ込み無く食べられているか？水分が摂れているか？などを確認し、小さな変化にも対応できるよう取り組みました。

普通食での摂取者が減少傾向にあります。数字だけで見ると摂取能力の低下などによる食事形態の変更が伺えます。普通食で食べられる方の減少を考えると、それだけ食事時の観察や気づきを増やし、事故発生の予測と防止が必要となってくると思われまます。次年度に向けての課題としては、栄養管理のもと、危険性やリスクの理解について周知徹底に努め、楽しく美味しく食事ができるよう取り組みます。「自分の口で食べる喜び」をサポートし、健康を支え、維持して頂けるよう多職種と連携してまいります。

年間提供食数

	特養	ショート	ケア	グループ	デイ	配食
年間食数	55471	12683	23010	17723	6445	1547
1ヶ月平均	4623	1057	1918	1477	537	129
1食平均	51	12	21	16	18	5
年間総数量	116879					

食種別食数 令和5年3月31日現在

	特養	ケアハウス	グループ	合計	割合
普通食	9	14	13	36	45%
刻み食	18	5	1	24	30%
超刻み食	2	2	0	4	5%
トロミ食	5	0	1	6	7.5%
ソフト食	0	1	1	2	2.5%
ペースト食	8	0	0	8	10%
経管	0	0	0	0	0%
合計	42	22	16	80	100%

R4年度 栄養摂取基準

	エネルギー	タンパク質	脂質	塩分
特養	1,350kcal	55g	33g	8g未満
ケアハウス	1,450kcal	60g	35g	8g未満

R4年度 実給与栄養量

	エネルギー	タンパク質	脂質	塩分
特養	1418kcal	56.5g	38.7g	7.5g
ケアハウス	1471kcal	57.3g	40.5g	7.7g

6 歯科衛生士

歯科医師 5 名（内 2 名は施設長）、歯科衛生士 4 名で、ご利用者、約 200 名の口腔健康管理を行っています。令和 4 年度は、お一人おひとりの口腔健康管理を行うことに特に力を注ぎました。

全事業所のご利用者の口腔ケアに法人所属の歯科衛生士が直接関わり、他職種へのアドバイス、歯科医師との連携により、健康な口腔環境を継続できるようつとめ、う蝕や歯周病への対応だけでなく、義歯の専門的管理、扱い方や手入れの指導助言、生活の質を大きく左右する、おいしく食べる、楽しくおしゃべりする、口の働きを維持するために大切な唾液を守ることを目標に、嚥下機能を保持するための歌・舌体操・DVDによる口腔体操などの口腔リハビリテーションを行いました。

口腔は、食物を摂取する働きだけでなく、発音、呼吸という大切な役割を担い、質の高い生活を送るためにも重要、口腔ケアにより、歯科疾患の予防、口腔機能（摂食、嚥下、構音、審美）の健全な維持、感染症の予防が可能となります。そのため、高齢者施設等での口腔ケアと治療は、生命の維持や生活の質の担保には必要不可欠と考えています。

また、困難事例とされる、改善のみられない方、本人の意思の確認できない方、拒否のある方、口臭のある方、口があかない方、認知症によりコミュニケーションの困難な方、義歯を紛失される方、服薬による唾液分泌低下の方、全身疾患のある方、経管栄養の方にも歯科医師、栄養士、看護師、相談員、介護職員と連携し、少しでも日常生活が安定し、おいしい食事を召し上がっていただけるようつとめました。

7 特別養護老人ホーム あじさい園宝

法人目標 『One Team 共に歩もう 温かい心で』を振り返って

福祉・介護に携わる私たちにとって、ご利用者に寄り添ったサービスを提供するためには、チームで取り組むこと、職員同士が想いを共有することが大切です。『One Team 共に歩もう 温かい心で』について、ご利用者お一人おひとりが、いつまでも自分らしい生活ができるように、多職種の職員が一つのチームとなってご利用者の生活に寄り添う支援を実践いたしました。令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染症が国内で初めて確認されてから 3 年目となりましたが、高齢者施設でのクラスター発生時案も未だ多く、当園でも 2 度のクラスターを経験いたしました。ご利用者の健康管理と感染症対策の難しさを改めて痛感するとともに、困難な時ほどチーム一丸となって、ご利用者に安心をお届けするために温かい心で向き合うことの重要性を実感いたしました。次年度以降も、基本理念や運営理念とともに、チームワークを大切にしたい施設運営に引き続き取り組んでまいります。

○行事報告

新型コロナウイルス感染症の影響で、外部講師の先生を招いての定期的な行事や、地域の方々との運営推進会議、会議室の開放等は中止することとなりましたが、オン

ライン介護予防教室やピアノコンサートなど、全体行事を一部再開いたしました。また、お誕生日会やクリスマス会、節分の豆まきなど、ユニットごとの行事も行い、ご利用者と職員と一緒に季節の行事を楽しみました。「のこのこたより」の発行数も増やし、ご利用者ご家族、地域の方々にも広くあじさい園 宝の運営状況を知っていただけるよう情報発信を行いました。

○人材育成

今年度は、介護職正職員の介護福祉士資格保有者が75%となり、全介護職員でも51.5%となりました。実務者研修修了者が15.1%、初任者研修修了者が45.5%でした。令和3年度より、介護・医療系の資格を持たない介護職員に対しては、令和6年度までに認知症介護基礎研修を修了することが義務付けられました。基礎疾患を持つ高齢者の数が増加するにつれ、介護職員に必要とされる介護・医療に関する専門知識や手技はより高度なものとなっています。入職後は、全職種を対象として認知症介護基礎研修の受講ができるよう支援しています。次年度も、認知症介護基礎研修、実践者研修、ユニットリーダー研修の積極的な受講を支援して参ります。また、介護福祉士国家試験や介護支援専門員実務研修受講試験の受験も支援いたします。

技能実習生として当園に入職されたベトナム人職員は3年間の技能実習期間を修了し、特定技能外国人実習に移行されました。夜勤を含む全時間帯の勤務に入っていたが、日本人スタッフと同じ業務に就いていただけるようになりました。令和4年8月からは中国人特定技能外国人実習生も着任され、介護福祉士資格取得を目指し、ご利用者や職員同士でも日本語でコミュニケーションを取り、日本語での記録の記入もされております。今後も、職員ひとりひとりの目標設定を明確にし、ご利用者に質の高いケアを提供するために、自分自身に今何が必要なのかを考え、行動に移せる人材育成を目指します。

【医務室の取り組み】

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症が園内に蔓延しないよう、職員のスタンダードプリコーション徹底への啓発、手指消毒や環境消毒、環境整備がすぐできる物品配置の変更に取り組みました。

ご利用者の感染発生時は、嘱託医と連携を図り、投薬治療の速やかな開始を実施し、重症化予防に努めました。

面会制限のあるコロナ禍での看取り介護では、今年度の法人目標である「One Team 共に歩もう 温かい心で」の大切さを一層 感じることができました。

ご利用者のニーズに沿った最期を迎えて頂けるよう、多職種の連携はもちろん、ご利用者をよく知るご家族も交えたOne Teamで支えられるように話し合いを重ねました。

歯科では、ご自分の口から食事が楽しめるような口腔状態の維持を目標にしています。そのためには、歯科衛生士による専門的な口腔ケア以外に、日ごろの歯ブラシやうがいなどのセルフケアがとても大切です。ご利用者お一人おひとりにどのような支援があればご自分でもケアができるのかを常に考え、介護職員とも情報共有しながら自立支援につながる口腔ケアにも取り組んでいます。食事介助では、食べにくそうな

ご利用者については介護職員や看護師に日頃の様子を聞き、歯科治療が必要な方は診察に繋げるようにしました。また歯科連絡ノートを作成し、ユニット職員と治療内容の共有を行い、チームケアができるよう努めました。

【栄養士、調理師の取り組み】

新型コロナウイルスの影響で外出や園での行事が制限される中、毎日食べる食事の中で楽しみを感じていただきたく、嗜好調査を行い1番人気のあるお寿司のオーダーバイキングを行いました。事前にご利用者に好きなネタを選んでいただき目の前で盛り付けを行い提供しました。大好きなお寿司を目の前にするとテンションが上がり、日頃食事摂取量が少ないご利用者でも驚くほどパクパクと召し上がっておられました。

食事は単なる栄養摂取だけではなく、人とのつながりや季節を感じていただける場所でもあります。園で作った作物も利用者様に「どんな料理で食べたいですか？」と会話をしながらなるべくリクエストに応じて提供するようにしました。ご利用者からは「もうそんな季節か、美味しいわ」や「好きな料理にしてくれてありがとう」などの言葉が聞かれ、思わずこぼれる笑顔を見る事が出来ました。

食事の場面からでもご利用者の笑顔が増え、心身共に健康に過ごしていただけるように努めました。

今後も園での食事にご利用者の意見や嗜好を取り入れ、盛り付けや色合いを工夫し、味や見た目の改善に努めより良い食事の提供を行う事で楽しみや生きがいにつなげていきます。

栄養ケアマネジメントについて

高齢になると栄養状態が悪くなりやすい為、ご利用者個々の健康状態や体重減少率、ADL、食事摂取量、栄養補給法、褥瘡の有無を把握することにより、低栄養に陥るリスクがどの程度かを低リスク・中リスク・高リスクに分けて判定します。そして食事の嗜好、食事形態、嚥下状態、自力摂取可能かを評価し、さらに薬の内容について他職種と情報交換を行い、栄養についての課題を明らかにしご利用者個々に必要な栄養改善に対する目標と計画を決定しました。

特養 48名在席中に低リスクが21名、中リスクが22名、高リスクが5名いらっしゃいます。割合としては低リスク44%、中リスク46%、高リスク10%となっています。

低リスクの方はその状態を維持し、中リスクの方は低リスクになるように、高リスクの方は中リスクを目指して栄養改善の為の計画を作成し実行に努めました。

栄養管理を行う上で個別に対応しているのは食事形態です。

ご利用者の年齢も上がり普通食を食べる方が減り、嚥下調整食が必要な方が増えてきています。

現在は普通食、一口大、刻み食、超刻み食、ソフト食、ペースト食を個人の嚥下状態に合わせて提供しました。

主菜は刻み食を食べている方でも薬物類をしがんでいる方には副菜のみソフト食にするなど状態に合わせたオーダーメイドな食事を提供しました。

主食はご利用者のその日の状態に合わせてユニットで米飯やお粥、米飯とお粥を混ぜて軟飯にして提供したりしています。お粥でもむせ込む方にはソフト粥に変更しています。

ミールラウンドを行い食事時の姿勢や摂取・嚥下状態、摂取量を観察し、多職種とカンファレンスを行い、食事形態をより細かく見直し提供しました。

食事の進みが悪い方はご家族に協力いただき、食べなれた物や好きな食べ物を差し入れていただきご利用者自身の食欲を引き出すように心がけています。

食事量が少ない方や褥瘡がひどい方は多職種とカンファレンスを行い個々にあった栄養補助食品をご家族に提案し一番良いものを提供しました。

看取りケアのご利用者には食事摂取量が少なくなる為、ご利用者の食べたい物や好きな物を尊重しご家族に持参していただき、一口の食事が好きな物である幸せを大切にしています。

栄養ケアマネジメントを行うことで栄養状態を把握しさらに、ご利用者やご家族とも話す機会が増え自宅での食事の様子、嗜好や意思に寄り添うことが出来ました。

食事提供について

食事については出来るだけ口から食べていただきたい、美味しいと感じていただきたいという思いで提供しています。「温かいものは温かく」「冷たいものは冷たく」という食事をおいしい状態で食べていただくよう努めました。また毎月給食会議で他職種からの意見、要望などに対して厨房会議で話し合い対策を検討しフィードバックしています。

またご利用者の自力摂取を促す為に他職種とも話し合い食べやすいようにサイドテーブルや台を使用し高さの調節を行い、グリップ付きのスプーンや傾斜や滑り止めの付いた自助食器を使用しています。

安全な食事、衛生管理について

食中毒及び感染症予防に努め、安全かつ安心な食事提供を目標としてきた結果、食中毒事故もなく無事に提供することが出来ました。今後も調理従事者としての自覚を各々がしっかり持ち健康管理も仕事のひとつとして努めます。配膳ミスなどのケアレスミス無くすためにもダブルチェックを継続していきます。

年間提供食数

	特養	ショート
年間食数	51,066	6,707
1ヶ月平均	4,255	559
1食平均	46	6
年間総食数	57,773	

食種別食数 令和5年3月31日現在

	特養	ショート	合計	割合
普通食	16	2	18	32.7%
刻み食	16	5	21	38.1%

超刻み食	9	0	9	16.3%
ソフト食	6	0	6	10.9%
ペースト食	0	0	0	0%
療養食	1	0	1	1.8%
合計	48	7	55	

令和4年度 栄養摂取基準

	エネルギー	たんぱく質	脂質	炭水化物	塩分
特養	1400kcal	50g	35g	240g	8g 未満

令和4年度 実給与栄養量

	エネルギー	たんぱく質	脂質	炭水化物	塩分
特養	1336kcal	51.5g	34.7g	200.1g	6.3g

○事故防止対策

個室での転倒事故報告が多いこと、ショートステイ利用時の転倒事故が多いのが課題で、特に夜間の過ごし方や、施設生活に慣れていただくまでの過ごし方に職員がどのようにかかわるかが重要であると考えます。夜間帯は、他のご利用者の介助中は居室対応となるため、細心の注意を払ってユニット全体の見守りを行い、事故防止に努めました。

ご利用者の残存能力を活かして、自立度高く生活できるよう支援させていただくのですが、自力で歩行されているご利用者の中にも下肢筋力の低下が進んでいる方がおられます。特に立ち上がりの際の見守りや声掛けには十分に配慮していきたいと思えます。ユニット内でのリハビリテーションや園内の散歩で、筋力の低下を防ぎ、事故防止を図るとともに、ご自身でできることは積極的に行っていただき、ADLの維持・向上に努めます。事故発生時の初期対応の迅速化と、原因の検証、多職種での再発防止対策の検討して実行いたしました。事故報告書は、正確な情報を時系列を追って記入することを周知徹底し、ご家族にも事故状況やその後の経過を分かりやすく説明し、ご理解いただけるように職員研修も行いました。

○感染症防止対策

令和4年度は8月と11月に新型コロナウイルス感染症のクラスターを経験しました。8月12日にご利用者1名が陽性と診断され、8月23日に最終の療養者の隔離期間が終了しました。ご利用者の感染者は4名で、うち1名は入院されましたが、療養期間終了後退院され園で生活されております。1名は、園での療養中に持病の心疾患悪化のためお亡くなりになりました。11月16日に発生した2回目のクラスターでは、7丁目8名、5丁目1名、2丁目2名、ショートステイ2名、合計13名のご利用者が感染されました。入院は1名で、持病の心不全が悪化したことによるものでしたが、療養期間終了後に退院されております。職員の感染者は12名でした。1回目のクラスター発生時は、オミクロン株は重症化率は低いと言われておりましたが、基礎

疾患をお持ちのご利用者が感染された場合、コロナに起因する基礎疾患の悪化や、病院受診ができないことによる基礎疾患の悪化が命の危険につながるということを実感いたしました。2回目のクラスター発生時は、重症化されるご利用者はおられませんでした。ミクロン株の感染力が強いため、初期対応を迅速に講じたにもかかわらず、多数の感染者が出ました。しかし、1回目のクラスター事案から、隔離療養によるADLやIADLの低下を防ぐことと感染症対策の両立が必要と考え、ユニット単位でゾーニングを行うことで、療養中も居室から出ていただいたり、ユニットのトイレを使わせていただくなどの対応を取ることができました。新型コロナウイルス感染症の感染症分類上の位置づけは変わりますが、ウイルスの性質自体が変化したわけではありませんので、今後も医療職を中心にご利用者の日々の健康管理をしっかりと行うとともに、感染源を持ち込まないよう、初期対応を徹底いたします。また、年間通して感染症防止対策委員会を中心として、研修の機会をさらに増やし、医療的な知識を深め、実践できるようにいたします。

○苦情対応

ご利用者やご家族から職員の対応やサービス提供に関するご意見をいただきました。

特にショートステイのご利用者からの、職員の接遇についてのご意見をいただきました。ご意見に真摯に向き合い、ご利用者が望む生活を実現できるよう、挨拶、笑顔、目線を合わせたお声かけという接遇の基本から、相手の立場に立って今自分に求められていることは何かを考えて行動することを常に心がけ、互いに気を付け合える職場環境づくりを意識しました。次年度も、サービスの質の向上に繋がります。

○ICT化

令和4年度より、介護記録のICT化に取り組み、ケース記録や食事、水分、排泄記録をタブレット端末に入力しています。初めは慣れずに苦戦していた職員も、互いに協力し、少しずつシステムに慣れてまいりました。今後は、記録したデータを分析し、ご利用者の個別ケアに活かし、サービスの質の向上に繋がりたいです。

○看取りケアを振り返って

令和4年度は、12名の方があじさい園 室で最期を迎えられました。コロナ禍の中のため、お元気な頃にご家族と過ごしていただく時間は少なかったですが、食事の摂取量が少なく感じたころから、ご家族に連絡をさせていただき、ご本人の好きな食べ物やご家族の手作りの食事を差し入れしてもらおう等、ご家族との連携を密に図れたと思います。ご家族に意向確認後、看取りケア期間中はご家族には短時間の面会時間でしたが、毎日面会して頂くことができ、ご本人もご家族も有意義な時間をお過ごしいただいたと思います。その中で、スタッフもご家族とお話する機会が増え、ご本人とご家族の思い出話しやご家族の思いに触れ温かい気持ちになりました。今年は、ご家族の思いに応えられることも多く、ご家族と一緒に温かいケアができたと思います。

令和5年度も、その人らしさを大切に、ご本人、ご家族のご意向に沿えるよう、ご家族と一緒に温かな庭的な雰囲気の中でお過ごしいただけるように支援いたします。

8 ショートステイ あじさい園宝

コロナ禍の三年目、可能な限り自宅同様、自分らしい生活が送れるよう居宅介護支援事業所と連携し事業運営に努めました。個室・ユニット型の特徴を活かし、一人ひとりのニーズ、私はこうありたいお気持ちに寄り添い、出来る限り在宅生活に近い生活を送っていただくことを念頭に置いて、入浴、排泄、食事の介護、相談及び援助、健康管理等のケアを行いました。

ご利用者、ご家族の希望は様々で、初回面接時には個別の希望、なじみの習慣を聞き取り、その人らしい生活の継続に努めた。自分らしい暮らしの継続を図れるようにアセスメント情報を介護職、看護職、栄養職で共有しました。

年間利用者の平均要介護度3（男性要介護2.7、女性要介護3.2）。重度の方の利用も増え、利用中の状態変化もあった。そうした場合等は、まずご家族の希望に沿い、主治医、担当ケアマネージャー等密接な連携を図ることで、ご本人、ご家族の安心につながるように努めました。

感染症対策の上で8月、11月の施設内クラスター発生時には、利用の制限をお願いし、予定されていたご家族には大変なご迷惑をおかけしました。しかしその後の利用再開時、やっぱりあじさい園宝に行けばゆっくり出来る、気持ちよく過ごせる、夜が安心です等のお声をいただいたことは、事業所としてありがたい限りです。プライバシーに配慮した居住空間で、その方の状況を見守り、お支えするサービス提供を行うことで、楽しみと安心を提供出来たものと考えています。

今年度短期入所生活介護から特養へ入所された方は10名。また他施設に転居された方も3名おられます。急な身体状況の変化や家庭事情から在宅での暮らしの継続が難しくなったケースが多く、短期入所生活介護が施設生活の入口になっています。ご本人にとって急な環境の変化に寄り添うことは転倒などのリスクもあり簡単ではありませんが、次年度も引き続きご家族、各関係機関と連携を密に図り、ご本人の自己実現が叶うように努めていきたいと思っております。

※別紙9 参照（令和4年度 行事報告 あじさい園宝）	……P.42
※別紙10 参照（特別養護老人ホームあじさい園宝 入居状況）	……P.43
※別紙11 参照（令和4年度事故状況報告書）	……P.46
※別紙12 参照（令和4年度 あじさい園宝 苦情相談対応報告書）	……P.50

9 グループホーム あじさい園

「One Team 共に歩もう 温かい心で」

令和4年度の法人目標「One Team 共に歩もう 温かい心で」に基づき、職員一人ひとりがチームワークを重視し、共に協力してサービスに提供に取り組んできました。今年度においても新型コロナウイルスの流行により感染症対策は最重要課題であり感染対策にも取り組んでまいりましたが、残念ながらクラスターが発生してしまいました。

しかし、そのような中でチームワークを重視することが大切であるという事も再確認することができ、得たものもありました。また、グループホーム内だけでなく、部署や個人の垣根を超えたチームワークの有難さも改めて感じることができました。

「感染症対策について」

8月のグループホーム内での新型コロナウイルスのクラスター発生により、ご利用者、ご家族、他部署にご迷惑やご心配をおかけいたしました。グループホーム職員の罹患者も多数出たのですが、他部署からの応援のおかげで乗り越えることができました。今後クラスターが発生しないためにも、より効果的な感染症予防対策を迅速かつ正確に実施することができるように再度マニュアルの再確認や感染拡大防止に向けた職員教育を強化することが必要であると感じています。

「運営推進会議について」

長引くコロナ禍の中、令和4年度も地域の関係者様には対面での会議ができず、電話にてご意見や近況などを聴かせていただきました。令和5年度の5月からは新型コロナの感染法上の分類が5類扱いとなるため、過度な制限はなくなっていくかと思われます。

次年度は情勢をみながら感染対策を講じつつ従来通り対面での開催ができたらと思っております。

「余暇活動の充実について」

外出制限のある中、少しでもストレスが軽減され楽しんでいただけたらと、体を動かすことを中心にDVDを活用した体操や音楽、職員が考案したゲームなどを積極的に行いました。

DVDも新たにいくつか購入しバリエーションも増えたかと思えます。ゲームにおいてはオリンピックにちなんでグルリンピックと名付け、金・銀・銅のメダルをかけてゲームで点数を競い合い楽しんでいただくことができました。

※別紙13参照（グループホーム 行事運営）……………P.52

※別紙14参照（グループホーム 入居状況・事故状況）……………P.53

10 デイサービスセンター あじさい園

◇法人目標「One Team 共に歩もう 温かい心で」

感染症対策は緩和されましたが、マスクの外せない生活が続いています。

ご利用者やご家族の協力の下、質の良いサービスの提供に努めました。些細な事でも話し合える環境作りを心掛け、ご利用者やご家族の思いを尊重する事を第一に、職員間での情報共有等も積極的に取り組みました。

信頼関係を大切にし、ご家族からも困り事などを相談して頂く機会も多くなりました。あじさい園と地域が一つのチームとして、手を取り合い、思いやりと温かい心でこれからも前進したいと思えます。

◇令和4年度は前年度に比べて、利用者数は増加しています。令和3年度の年間総合計が6034名に対し、令和4年度は6408名になっています。

令和4年度の傾向としては年度前半が高い値となり冬場にかけてやや減少しています。

前年度はコロナウイルス感染症の影響もあり閉鎖期間がありましたが、4年度はほぼ影響を受けることなくサービス実施できました。年齢層は70代から80代の方も多く、ご家族の層も年々若くなっているように感じています。それに伴い、職員の関わり方、コミュニケーション能力も重要になってくると考えます。

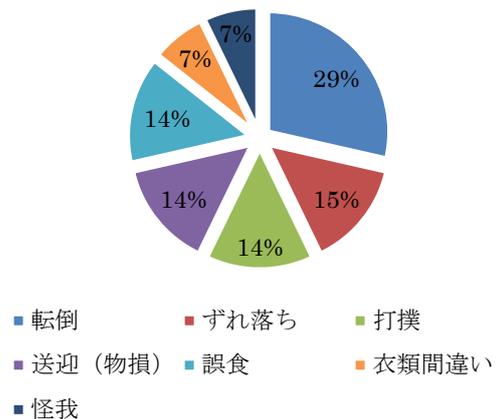
ご利用者の多様なニーズに応えられるよう、職員のスキルアップに努めたいと思えます。

引き続き、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所との連携を行い、地域の情報等の把握も積極的に行っていきます。

◇事故報告

合計	14 件
転倒	4 件
ずれ落ち	2 件
打撲	2 件
送迎（物損）	2 件
誤食	2 件
衣類間違い	1 件
怪我	1 件

令和4年度事故件数



事故件数は前年度より多くなり、転倒事故では骨折も1件ありました。

見守り不足や、不注意で起こる事故も多かったと考えます。

送迎時の事故では、同じ利用者宅での事故が立て続けに起こっています。職員間での送迎方法の引継ぎ等が十分に行えてなかったと考えられます。

職員同士の報告・連絡・相談を心がけ、今後も事故のないよう技術向上に努めていきます。

※別紙 15 参照（令和4年度行事報告 デイサービス）……………P.54

※別紙 16 参照（令和4年度 デイサービス 利用者総合計・平均・稼働率）P.55

11 ケアハウス あじさい園

法人目標「One Team 共に歩もう 温かい心で」について

ケアハウスには、個性豊かな方が入居され、いろんな個性のスタッフが生活を支えています。ご利用者の中には、明るく場を盛り上げて下さる方、物静かにテレビを見て過ごす方、廊下の安全を見守って下さる方、などいろいろな方がお過ごしです。職員にも日々の業務をしっかりと守ってくれる職員、レクリエーションや体操で楽しい時間を創ってくれる職員、裏で皆さんの生活を支えてくれる職員、などいろんな特技や役割の職員がいます。多種多様な個性が集まり One Team になり皆さんとともに過ごしてまいりました。長引くコロナ渦で、行動制限が続いています。ご利用者の健康を守るためとはいえ心苦しい限りです。ただ、皆さんのご協力のおかげでこの一年間感染症の蔓延は一度もなくお元気でお過ごし頂くことができたことを感謝しております。その他に、ADL の維持と運動不足解消のため滑車運動器を設置しご利用者の皆さんに活用して頂いています。また以前ケアハウスにご入居頂いていた方のご家族から寄付のお申し出を頂き、レクリエーションのためカラオケ機器の更新に活用させて頂きました。このように園の内外の方々のご支援を頂き、ケアハウス One Team として楽しく明るく過ごす事ができました。

次年度も他部署、他機関と連携してスタッフ一同とご利用者と共に楽しい日々を送れるよう One Team で努めてまいります

令和4年度を振り返って

令和4年度の入居者状況は、入居者5名退居者10名で、内特養入所2名、グループホーム入所1名、入院5名、ご逝去2名で90歳代の方が8名おられました。月平均入居者数は24名で稼働率80%でした。また、平均年齢85.9歳、平均介護度は1.39でした。

退居された方の内お一人は在籍期間14年と永くお過ごし頂き、食事が摂れなくなり入院の度に「あじさい園に帰りたい」とおっしゃっていましたが、病院で看取られました。「気ままな母を長く見て頂きありがとうございました。」と娘様よりお礼のお言葉を賜りました。

また、転倒事故発生は21件と多く、特に5名の方が何度も転倒され、都度予防策を検討致しました。

令和5年2月に2名の入居がありました。

1名の方は74歳の女性で、介護度は要支援1、もう1名の方は62歳の男性で、介護保険適応年齢に満たないため介護認定無しで入居いただきました。

感染症予防については、入居者、職員家族、本人共に有熱等の症状時また濃厚接触者となった時等、その都度「ウィルスを持ち込まない」「広めない」と必死の思いで対応し、予防対策に徹しました。外出、面会制限の継続等、入居者やご家族の方には大変ご不自由な思いをお掛け致しました。

入居者の皆様方にはストレスを溜め込まない様にと、極力レクリエーションや健康体操等の機会を多く持ち、ラジオ体操や食事前の口腔体操も毎回行い、皆様の笑顔を

多く見られるよう努めました。

新型コロナワクチンの接種ほか、日頃より予防に協力頂いたおかげで今年度は新型コロナ感染者は一人もおられませんでした。世間ではマスク着用も緩和されていますが、施設内では引き続きマスク着用の協力をしていただいています。

5月8日より新型コロナが感染症法上の5類移行に伴い今後の対応にも影響があるかも知れませんが、早く以前のように制限のない生活が送れる日が来ることを願っています。

7月より生活相談員入職増員に伴いより充実したサービスが提供できるよう努め、またこれからは新たな入居者をご紹介頂けるよう営業活動にも積極的に取り組んでまいります。

※別紙 17 参照（令和4年度年間行事報告 ケアハウス） ……………P.56

※別紙 18 参照（ケアハウス入居者の状況） ……………P.57

12 居宅支援事業所 あじさい園

令和4年度を振り返って

今年度の居宅介護担当総数(予防支援を含む)は要介護666件、要支援委託176件、総合計は842件でした。

昨年に比べて、要介護103件の減少、要支援委託62件の増加、総合計は41件の減少でした。

要介護者の件数減少の要因として、特養施設へ入所となるケースが昨今に比べると倍増したことが影響したものと思われます。現在は要介護4.5のご利用者は減少、要介護1.2のご利用者が大部分を占める割合です。

新規ケースを受けても、入れ替わりが激しく、今までに比べると担当を受け持つサイクル期間が短くなっています。

コロナ感染拡大防止の観点から、感染対策を徹底しながらの訪問に努め、自分自身の体調、健康管理にも注意し業務にあたりました。

令和5年5月からはコロナはインフルエンザと同等の「5類」に移行し、今後はコロナと共存する新たな日常のステージへと移り変わっていきます。社会情勢に合わせた対応ができるようにしていきたいです。

法人目標「One Team 共に歩もう 温かい心で」について

ケアチームを構成するメンバーの各専門性を理解して連携にあたることやチームとして目指す目標に向かって必要な情報の共有やメンバーの専門性を発揮できるようサービス調整や役割分担が認識できるケアプラン作りを意識し、One Team で一人のご利用者を支えることができたと思います。

月別居宅介護支援担当数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護	61	60	56	56	58	59	57	55	55	52	48	49	666
要支援	13	14	15	15	14	15	15	14	15	15	15	15	176
月別合計	74	74	71	71	72	74	72	69	66	67	63	64	842

14 オレンジカフェ すいもん

オレンジカフェすいもんは、世界遺産である東大寺大仏殿から南西へ徒歩3分、豊かな自然に囲まれた奈良公園の中にあり、掘りごたつのある和室、明るい洋室、かやぶきの離れなど、それぞれのお部屋のしつらえや、お庭の手入れをボランティアさんとスタッフが一緒に相談しながら季節ごとに整え、お客様に古都奈良の落ち着いた雰囲気満喫していただきました。地域住民の皆さま、カフェを楽しみたい方、どなた様も気軽に立ち寄れる安らぎの場、交流の場、歴史を肌で感じながら、安心できる空間でリラックスしたり、お仲間との交流を楽しんだり、活動を通して元気になったり、新しい出会いを応援しました。

認知症家族の会主催の「しゃべり場」、田原地区新鮮野菜販売、介護予防体操、クラフト教室、手作り教室、お茶会、二胡教室、チェロ教室、哲学講座、運営推進会議等、コロナ禍ですが、感染対策をしっかりと行い、できる範囲で活動を継続しています。

パティシエ手作りのおいしいケーキとして、ガトーショコラ、スフレチーズケーキ、シフォンケーキ、アーモンドケーキ、ババロア、ショートケーキ、レモンケーキ、ティラミスケーキ、アップルパイ、フルーツロールケーキ……。パティシエ手作りの楽しいケーキを日替わりでご用意しました。

掘りごたつのある和室では懐かしさを体験、季節ごとのしつらえや、明治ガラスからゆらいで見える庭も楽しめます。梅、桜、柿、栗、ゆず等、大きな木や四季折々の草花、パワースポットもあります。

「感謝・機転・謙虚・笑顔・清潔」を基本理念とした社会福祉法人晃宝会として認知症予防への取り組みを一層強化し、認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望をもって日常生活を過ごせる共生社会を目指し、認知症は多くの人にとって身近なことであると互いに理解し、運動不足の改善、生活習慣病の予防、社会参加、孤立の解消、役割保持を自然に実現できる場づくりを行いました。

15 ニコニコタクシー(介護輸送サービス)

安全運転につとめ、事故の無いサービスの提供を行い、急なご依頼に対しても柔軟に対応、ご利用者・ご家族・地域の皆さまや関係機関との信頼関係の継続や構築に力を注ぎ、地域共生社会の実現に向け、努めてまいりました。

在宅サービスの入り口の事業であるため、「One Team 共に歩もう 温かい心で」を常につとめました。地域の足となり、利用者の皆さまが地域で安心してお暮し頂けるよう、安全第一を心に刻み、迅速な対応を行い、ご利用者との信頼関係を築いてきました。ご利用者の尊厳を守り、お一人おひとりに安心してご利用いただけるようお気持ちに寄り添い、笑顔での挨拶、優しい言葉遣い、敬語の徹底と接遇に気を付け、サービスの提供に努めさせていただきました。移動サービスの提供のみならず、介護支援専門員、介護職、医療機関、看護師等多職種と連携をとり、安心安全で質の高い送迎サービスを心がけました。

16 ハーネ中御門

事業状況について

令和4年2月1日開所

体験利用が徐々に増え、令和4年7月に初めてのご利用者が本入居されました。それから毎月お一人のペースでの入居、令和5年2月に10人目のご利用者が入居され満床となりました。

体制が不十分な中ではありましたが、お一人おひとりの誕生日、クリスマス等、大きなイベント月には皆様に喜んで頂けるような手作り夕食メニュー、ケーキを用意してお祝いしました。

健康管理について

毎朝・帰宅後の検温、必要な方は血圧、体重測定を行っています。

服薬に関しては全て職員で管理させていただき、体調・情緒の安定に努めています。また、特に体調管理が必要な方は、ご家族や関係者と連携をとり、適切な食事提供が行えるよう取り組んでいます。

【新型コロナウイルス対策】

日中作業所で感染者が出た際、濃厚接触者の可能性のあるご利用者はハーネ中御門で日中対応をさせて頂きました。

換気、消毒の徹底、食事提供や入浴にも細心の注意を払いながら、支援に努めました。ご利用者ご本人、ご家族や関係者の感染により、ご利用が思うように進まない1年でもありました。

防災・防火について

令和5年3月 消防訓練 通報訓練を行いました。